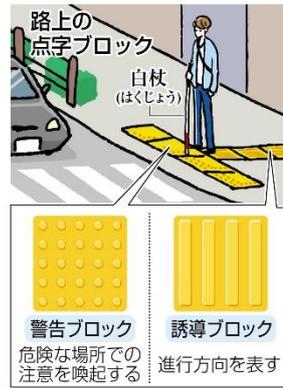


① 視覚障がい者にとって、点字ブロックとは何でしょう。端的に表している言葉を記事の中から抜き出しましょう。

命綱

② 点字ブロックの普及と歴史について、記事をさらに要約してみましょう。

視覚障がい者からヒントを得て、突起があるブロックを路上に敷く方法を開発。70年以降全国に普及した。「誘導ブロック」「警告ブロック」が12年に国際規格に。75カ国以上に導入されている。



点字ブロックが初めて設置された岡山市の交差点近く立つ記念碑＝岡山市

## 岡山発祥、視覚障害者支え続け 点字ブロック半世紀

75カ国以上に活用広がる

最初は230枚  
点字ブロックが誕生したのは1967年3月18日。岡山市の発明家、故三宅精一さんがブロックを考案し、県立岡山盲学校近くの交差点に300枚が設置された。

三宅さんが設立した「安全交通試験研究センター」（岡山市）によると、きっかけは道幅を狭くした視覚障害者の前を勢いよく車が走り抜ける危険な場面を三宅さんが目の当たりにしたところだった。三宅さんは歩道の位置や車道の境目を知らせる手段はないかと思索。友人の視覚障害者から「靴を履いていても足の感触で地面の状態が分かる」と聞いたのをヒントに、突起があるブロックを路上に敷く方法を考案したという。

70年に大阪市の国鉄（当時）阪和線我孫子町駅のホームに設置されたのをはじめ、全国の施設にも普及。国土交通省によると、現在は省令で道路や駅など必要な場所への設置が定められている。

形状は変遷を重ね、2001年に進行方向を表す教授（バリアフリー）として、国内外の設置状況を調査した。また、ブロックの設置方法について基本的な原則しか定められていないことが誤りを招いていると指摘。「国が詳細な設置ルールを作成し、自治体や施工業者に周知するべき」としている。

点字ブロックの存在が長く日常の光景に溶け込む中、本来の設置目的への意識が低下し、自転車や物などが置かれる問題も常態化。「点字ブロックを守る会」（岡山市）の竹内昌彦会長（78）は自らも全盲の立場として、「視覚障害者の『命綱』となる点字ブロックの上には物を置かない」とを社会の常識にしたい」と話し、ステッカー配布や全国の学校や企業での講演で啓発を続けている。

交通安全や駅おなじみの点字ブロックが、世界で初めて岡山市内に設置されてから今春で半世紀を超えた。視覚障害者の安全な歩行を支える「希望の眼」として海外にも活用が広がる一方、必要としない人々の意識の低さや、誤った理解による危険な設置などの課題も。関係省庁は啓発活動を通じ、重要インフラとしての一層の周知を図る。

(2017年5月5日付夕刊社会面)

③ 2種類の点字ブロック、それぞれ身の回りにはありますか？探してみましょう。

恥ずかしながら、解答を書いている人はブロックが2種類あることすら知りませんでした。みなさんはどうでしょうか。